

第161関係様式

調 査 研 修 報 告 書

令和6年2月26日

大郷町議会議長  
石川 良彦 殿

会派の名称 公明党  
代表者(議員) 田中 三恵子



下記のとおり政務活動調査研修のため旅行したので、大郷町議会運営に関する基準第161の規定により報告いたします。

記

1. 期 間	令和6年2月7日 ~ 2月8日 (2日間)
2. 調査地	群馬県利根郡川場村大字谷地 3200 川場村歴史民俗資料館 群馬県利根郡川場村大字荻窪 385 道の駅川場田園プラザ 栃木県下都賀郡壬生町本丸 1-8-32 壬生町歴史民俗資料館 栃木県下都賀郡壬生町国谷 1870-2 道の駅みぶ
3. 所 感	所感については、別紙のとおり。

※調査内容、出席者名、旅程表については、計画書と相違がある場合は、その理由を明記したものを添付すること。



## <所 感>

### 1. 歴史民俗資料館について

#### 1. 川場村歴史民俗資料館

##### ①展示物：原始古代・中世・近代・近代にいたる歴史と文化を「物」の形で集積

10万年前縄文時代に遡るナウマン象の臼歯、弥生時代の竪穴式住居跡で発掘された多数の土器。大友氏建立の吉祥寺、仏画や仏像、庶民信仰による板碑や石造物。徳川幕府の統括下の農民の生活を伝える古文書や、百姓一揆関係書類。文化や教育への志向が高く、明治7年に学校を設立し教育の普及に力を入れた。先進的な村の近代化による教育と文化の伝統と、多くの逸材を育んだ歴史があり、資料が豊富。古い農具類、近代の戦争関係資料、薄倅の歌人江口きちの資料なども展示。郷土カルタ(川場カルタ)などを事務室で販売。

##### ②施設の価値

明治43年に建築された小学校の校舎であり、昭和62年に「川場村歴史民俗資料館」として現在の場所に移築されたもの。国登録有形文化財(文化庁指定)。

##### ③施設の環境や運営

「川場村歴史民俗資料館運営審議会」によって、資料館事業の規格及びその実施、寄贈の受領等について調査・審議を実施。年数回の会議の開催、村内外における研修会等で知見を深める。

開館時間：10時～16時

休館日：月曜日・火曜日・祝日・12/29～1/3

入場料：高校生以上 200円(団体10名以上 160円) 障害者手帳持参者(無料)  
中学生以下 100円(団体10名以上 80円) 乳幼児(無料)

施設の構造と規模：

昭和62年3月31日開館。明治43年建築の木造校舎を移築。

建物は世界遺産富岡製糸場と同様のトラス工法。

敷地面積：12,076㎡ 建築面積：1,026.33㎡ 延べ面積：951.87㎡

来客者数の実績：

令和4年度入館数：2,683人

縁組協定を結ぶ世田谷区の小学5年生(約2,000人)が

移動教室の一環として毎年資料館を訪れている。

周辺環境：資料館の南が中央公園で、旧名主の館、旧沼田藩の薬医門、つくるべの家、ホテル田園プラザ(旧ホテルSL)等がある。近くに村役場、文化会館、スポーツ広場、吉祥寺、道の駅「田園プラザ川場」等がある。

#### 2. 壬生町歴史民俗資料館

##### ①展示物：「壬生のあゆみと文化」をテーマに古墳時代・江戸時代・近代文芸

1. 古墳時代：県内でも大きな古墳が集中(大小合わせ200基以上)

国指定史跡：5基(車塚古墳・牛塚古墳・愛宕塚古墳など) 県指定史跡：3基など  
愛宕塚古墳から出土した『盾持ち人』埴輪

富士山古墳から出土した『家型』埴輪など大型の埴輪が展示されている。

2.江戸時代：壬生藩は1～3万石の譜代藩 鳥居氏の統治が明治まで続いた。

日光東照宮造営時は物資輸送の前線基地、日光社参の徳川将軍家定宿で幕府の信頼が篤い。  
蘭学・洋学教育の普及が盛んで藩校「学習館」は近代教育の礎となる。

鳥居忠英が6代目城主となった際に殖産興業策として干瓢を普及(現在も全国の9割生産)。

### 3.近代文芸

蘭学や洋学教育の揺籃から多岐にわたる人材が育まれ、特に医者や薬剤師、看護師、文化人、文芸家など著名な人物の紹介と作品を展示。

#### ②施設の環境や運営

壬生城史跡に作られた壬生城址公園内に中央公民館・図書館と一体整備。

壬生町教育委員会直営(常設展：入館無料)

人員配置(4名)：正規職員(学芸員) 学芸1名 文化財1名

会計年度職員 学芸1名 文化財1名

協力者 古墳ボランティア 無形文化財連絡協議会

#### ③施設の構造と規模

昭和60年建築、鉄筋コンクリート造2階(延べ面積967.3㎡)

1階 事務室・研修室・収蔵室

2階 展示室・倉庫

バックヤードで、温度・湿度管理が必要なものを収蔵出来る設備がある。

#### ④来客者数の実績：テーマ展・企画展・サミットなどを開催(年度ごと)

令和3年度：3,152人 第18回全国藩校サミット 壬生大会

令和4年度：4,019人 企画展『大名の献立-文化二年壬生御献立帳-』

令和5年度：8,000人見込み 企画展『家康と元忠-伏見に散った忠誠心-』

#### ⑤豊富な資料

開館当初ゼロからのスタートだったというが、専任の専門職である学芸員等による資料収集と研鑽、展示物の研究が実を結び、40年有余にわたる成果が、学芸資料として豊富に展示。

## 2. 道の駅について

### 1. 道の駅川場田園プラザ

#### ①『農業プラス観光：川場村のテーマ』と『都市交流事業：S54区民健康村づくり』

世田谷区との相互協力協定のマッチングにより立ち上げられた。

#### ②運営形態

法人名：株式会社田園プラザ川場 設立：1993年4月1日設立

資本金：9千万円(川場村出資割合60% 他9団体) 事業費：31億4千万円

従業員：140名(社員40名、パート・アルバイト100名)

集客数：240万人/年：『じゃらん』道の駅グランプリ第1位。

#### ③地域貢献

1)就業の場の拡大：若者、高齢者や企業退職者、専業、パート主婦など

2)農産物の販路拡大：地場産品の開発、PRを進め、その流通を促進

3)村民相互、並びに村民と村来社の交流・交歓や情報交換の場

4)シャトルバスなどの起終点など、村内の交通ターミナルとして機能

## 5)川場村オンリーワンへのコダワリ商品

雪ほたか：ブランド米。米食味鑑定コンクール国際大会7年連続金賞

のむヨーグルト：川場牛生乳のナチュラル加工の看板商品

地酒：水芭蕉日本酒製造協会最大規模「全国新酒品評会」15回金賞

川場ビール、ハムソーセージ他、コンクール等での受賞歴が多数

## 2. 道の駅みぶ みぶハイウェイパーク

### ①経緯・目的

北関東自動車道はH23年度前線開通し、壬生町にドライバーの休憩場所として設置された。地理的にも町を中心に位置し、地域産業や文化振興・活性化、周辺施設との連携を図る、新たな地域拠点を目指すことを目的として整備。

### ②運営形態

日本一大きな道の駅：52.4ha 駐車台数：普通車 1636台 大型車 42台

とちぎわんぱく公園：栃県の公園⇒指定管理：県公園福祉協会

壬生町総合公園：壬生町の公園⇒町直営：町都市計画課

壬生町おもちゃ博物館：壬生町の施設⇒指定管理：町指定公営公社

みぶハイウェイパークみらい館：壬生町の施設⇒町直営：運営は町スタッフ

### ③ハイウェイオアシス(全国で27カ所)

壬生パーキングエリア(壬生PA)に連結し、高速道路(上下線)と一般道の両方からアクセス可能。県内で唯一のハイウェイオアシスの機能を持つ。

### ④防災拠点化・施設の多様化

R5年6月、国土交通省が『防災道の駅』として指定(全国で39駅)。県内で唯一の『指定』。今後『認定』を目指し更に防災機能の整備をすすめている。

(道路情報や医療情報等の情報提供、救援活動や物資配布・復旧活動の拠点)

### ⑤今後の課題：新コンセプト～経由地から目的地へ～(人流：360万人/年)

①物販施設や農産物直売所、飲食施設等の規模拡大及び充実。

②施設利用者に寄り添った商品、サービス提供の促進。

③駐車場やトイレなどの「思いやり」利便性の向上。

④施設利用者にインパクトを与える「壬生の魅力」の発信力の向上。

## 3. まとめ

### 1. 歴史民俗資料館について

視察した二町では、歴史的な文化財や展示物の豊富さに驚くとともに、長年の資料収集と研鑽、展示物の研究など、努力と蓄積のもとで整えられてきた成果があってこそその展示であると感じた。まさに、一朝一夕にしてはならず、である。

当町における資料の現状把握とともに、今後、どのような方向性で収集し、歴史民俗資料としての価値を高めていくか、まずは検討が必要であろう。

現時点では、既存施設の一部スペースを用いて、暫定的展示を行うことが現実的と考える。保管場所についても、保存状態としてより良い環境の整備が望まれているようだ。歴史民俗資料館の建設は、令和11年度の新庁舎移転・建設の計画と併せて検討するのが妥当と考える。

## 2. 道の駅について

視察した二町は自治体の規模や施設の立地・運営形態などが異なるが、集客数や収益面で群を抜いた実績があった。当町の道の駅にそのまま応用することは難しいが、参考にしたり取り入れたりすることが可能な面もあると感じた。

『道の駅川場田園プラザ』は、モデルとした事業はなく、開設当初は「物が無い・接客がダメ・施設が点在していて不便」等のクレームがあり不評だったが、お客様目線の組織委員会を立ち上げ、課題を解決しながら現在の形になった、との事。

現在は、ブランド米『雪ほたか』の中でも世界ブランド米として桐箱入りも1万円で販売され、『のむヨーグルト』などの看板商品が人気を博し、多数の人流を呼び込むと共に、地域の雇用や農業・産業の活性化と経済効果を生んでいる。

当町においても、緑会の団子やお餅、オコワ等人気商品が既にあるが、看板商品としてアピールの仕方を工夫することで、更に知名度を上げることが出来ると思う。他の道の駅と比較しても、野菜は品質や包装の状態も良くて安価、お米は値段設定が高目だが、逆にブランド米としての付加価値を付ける等、大郷ならではの特徴を積極的にアピールする中で、携わる農家さんや道の駅スタッフ、町スタッフ等の地域振興への意識が高まり、好循環を生むことを期待したい。

また、『道の駅壬生』は自治体の規模は異なるが、県庁所在地に近く、複数の道路の通過点という面では類似性もあり、防災機能を備えた道の駅というコンセプトは、当町の目指す方向性として検討すべきと考える。

『防災道の駅』選定要件として以下①～③となっているが、

- ①建物の耐震化、無停電化、通信や水の確保により災害時に業務実施可能な施設
- ②災害時の支援活動に必要なスペースとして2500㎡以上の駐車場を備える  
(自衛隊・テックフォース等の救援活動や緊急物資当の配布・復旧活動の拠点)
- ③市町村と道路管理者の役割分担が定まったBCP(業務継続計画)策定がある

東北ブロックでは青森(七戸町)、岩手(遠野市)、秋田(大仙市)、山形(飯豊町)、福島(猪苗代町)の5カ所が選定され、宮城県ではまだ選定されていない。

国土交通省として、都道府県が策定する広域的な地域防災計画および新広域道路交通計画(国土交通省と都道府県で策定中)に広域的な防災拠点に位置付けられている道の駅について、防災拠点としての役割を果たすための、ハード・ソフト両面からの重点的な支援を行うこととしている。

当町の位置付けについて確認が必要だが、選定要件を満たさない場合でも、道の駅の新たな役割をキャッチし先手先手で取り組むことは有用と考える。

以上

付記：R6.2.7の宿泊場所変更

群馬県沼田市内(調査研修計画書添付の旅程表記載)

⇒栃木県鹿沼市内に変更(宿泊予約出来なかった為)